

## 平成 30 年度

### 国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業

#### 報告書

1. 「企業×女性起業家のマッチングイベント ビジネスにも運命の赤い糸ってあるんですーWEPS（女性のエンパワーメント原則）の実現に向けてー」  
一般社団法人東京ニュービジネス協議会、J300 実行委員会・・・ 1
2. 「女性の活躍！長崎から世界へ～フィフティ・フィフティをめざして～  
みんなが元気になるー街を 世界を 創る」  
認定特定非営利活動法人日本 B P W 連合会、B P W 長崎クラブ・・・ 5
3. 「来たれ、リーガル女子！～女性の弁護士・裁判官・検察官に会ってみよう！～」  
日本弁護士連合会、九州弁護士会 等・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 2
4. 「若草プロジェクト in KYOTO 公開シンポジウム 若年女性・少女をいかに地域で支えるか 生きづらさからの脱出」  
京都府更生保護女性連盟・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 8
5. 「自分を受け入れ自分を認め、一歩踏み出す 「キキ」の魅力と「自己肯定感」」  
特定非営利活動法人 国連ウィメン日本協会・・・・・・・・・・・・ 2 3
6. 「関西女性活躍推進シンポジウム～すべての女性が活躍できる関西へ～」  
関西女性活躍推進フォーラム 等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 6
7. 「おとう飯シンポジウム 生活を楽しむ“お手軽”家事のすすめ」  
岡市女性活躍推進協議会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 9

# 企業×女性起業家のマッチングイベント ビジネスにも運命の赤い糸ってあるんですーWEPs（女性のエンパワーメント原則）の実現に向けてー （報告）

**団体名** : 一般社団法人東京ニュービジネス協議会/J300 実行委員会

## 【開催趣旨・目的】

本企画は、WEPs（女性のエンパワーメント原則）の第5・6原則の促進を図るイベントである。女性の活躍による経済社会の活性化において、WEPsの果たす役割は大きい。日本では200社以上（平成27年5月現在）がWEPsに賛同し、署名している。WEPsは7原則で構成され、署名企業は各原則の遂行に尽くしているが、「ステークホルダーや地域との参画」を謳った第5・6原則は、各社内で実施される管理職の登用促進や教育・研修機会の提供などの取組とは異なり、その活動方法や取組の在り方が模索されている。

こうした現状に鑑み、本事業では、第5原則のうち「女性の経営者や起業家との取引の発展、取引先や同業者の関与」、第6原則のうち「ステークホルダーや当局、その他の機関との協働促進」にフォーカスし、東京ニュービジネス協議会・J300 実行委員会等が協力し、女性起業家と大・中堅企業、WEPs 署名企業による女性のエンパワーメント促進事業を実施する。さらには、様々な女性起業家の活躍を全国に発信することで、都内だけでなく地域の女性の社会活躍を促す。過去4回を経て、事例も複数生まれているため、実績紹介とともに第5原則のさらなる加速をはかる。

【日時】2019年2月15日（金）10:30～16:15

【場所】イトーキ東京イノベーションセンターSYNQA

【参加者数】のべ349人 ※男性比率15%程度

第一部：175人（主催者関係者：10人、女性起業家：67、企業・一般来場者：98人）

第二部：174人（主催者関係者：9人、女性起業家：111、企業・一般来場者：54人）

## 【プログラム】

### ■第一部 10:30～

[トークセッション1]女性起業家と取引企業によるコラボレーション事例を紹介

[トークセッション2]全国各地で活躍する女性起業家の取組を紹介

### ■休憩 12:30～13:30 ランチ交流タイム

### ■第二部 13:45～

[これまでのマッチング実績の紹介]

[プレゼンテーションセッション]

事前に企業が提示したテーマに対し、女性起業家がプレゼンテーション

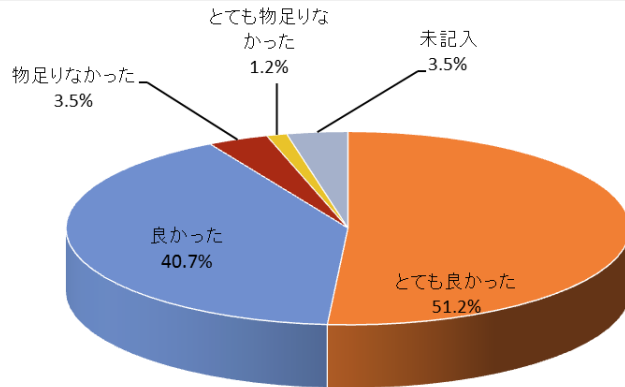
### ■クロージングセッション

総括発表

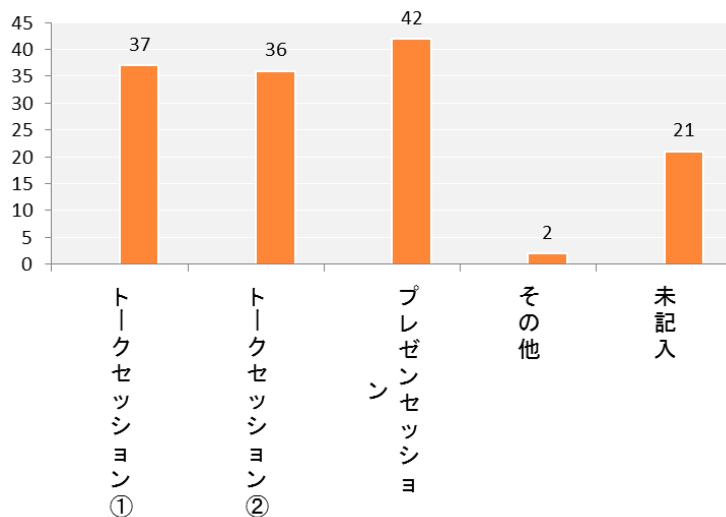
【参加者のおもな感想・意見】アンケート結果より（回答数：86）

### ■イベントの評価

「とても良かった」「良かった」の評価が合計で91.9%。



■良かったと思うセッション（複数回答可）



■参加者コメント（一部抜粋）

- 女性企業家の方が地方連携してどのように活躍されているのかが実例を知れて視野が広がりました。（30代・女性）
- 多様なタイプの起業家がいらっしやることがわかった。どの方も「やりたい」を仕事にしているのが印象的だった。（会社員・50代・女性）
- 実際にビジネスをすすめている方々のリアルな声、アイデア、想いが感じられてよかった。（自営業・40代・女性）
- 様々な事例を知る事が出来て良かった。プレゼンする機会を設けて頂きありがたかった。（自営業・50代・女性）
- 着眼点と発想力、行動力が大切だと思いました。女性のライフスタイルに合わせた支援を考えていきたいと思います。（公務員・30代・男性）

## 【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

### 【成果1】 第二部プレゼンセッションのプレゼン通過率は 37.6%で、WEPs 第五原則の促進に向けた具体的な成果につながった。

参加企業が女性起業家のプレゼンを「もっと詳しく聞きたい」と評価した割合は 37.6% (47/125 プレゼン) となった。昨年より通過プラン数は増加 (昨年度 35→今年度 47)、通過率もアップ (昨年度 : 34.7%→今年度 : 約 37.6%) した。

また、女性起業家が実施したプレゼン数は過去最大数 (125 プレゼン、昨年比+24) となり、企業と女性起業家の取引機会提供の規模が拡大した。

### 【成果2】 企業と女性起業家の実際の取引の好事例を発信することで、WEPs 第5、6原則の促進を図り、男女共同参画社会への理解を深める機会となった。

女性起業家と取引する大手企業の担当者がトークセッションに登壇し、企業が目線から女性起業家と取引のきっかけやその効果などを発表した。

また、企業・一般参加者を含め交流可能な休憩時間を設けたことで、女性のエンパワーメントに関心がある来場者と女性起業家との間に接点を生み出すことができた。

### 【成果3】 様々な女性起業家の取り組みや事業を発表することで、起業を検討する女性にロールモデルを提供することができた。

トークセッション1・2では、様々な業界や地域で活躍する8名の女性起業家が登壇し、それぞれの事業内容や事業にかける思いを発表した。



▲トークセッション1



▲トークセッション2



▲ランチタイムの交流



▲プレゼンテーションセッション



▲プレゼンテーションセッション



▲参加した女性起業家で集合写真

### 【総括、今後の課題】

過去6回、東京にて本イベントを開催。女性起業家の取引機会拡大にとどまらず、大手企業側にとっても多様かつ新たな視点を事業に取り入れる意義のある機会となっている。起業に興味をもつ一般の方々には、起業を後押しするきっかけや販路や取引先拡大の具体的ヒントが得られる機会となっている。

企業×女性起業家という趣旨のイベントは本イベントが唯一であり、女性起業家の参加者のうち首都圏以外からの参加者が3割以上となっており、増加傾向にある。

今後に向けて、東京以外の地域でも同趣旨のイベントを開催することで、起業という選択肢の周知にとどまらず、取引先の多様化としてサプライチェーンに女性起業家を取り入れるという取組みを全国的に広げる価値がある。東京以外での開催も検討の必要がある。

## 「女性の活躍！長崎から世界へ～フィフティ・フィフティをめざして～」

みんなが元気になる一街を 世界を 創る」

**団体名：認定特定非営利活動法人日本BPW連合会およびBPW長崎クラブ**

### 【開催趣旨・目的】

2015年の国連総会、世界各国の首脳が集まり、SDGs (Sustainable Development Goals/持続可能な開発目標) が採択された。このSDGsは、2030年までにジェンダー平等の達成(目標5)を含む世界が解決すべき17項目が盛り込まれている。

このSDGsに掲げられた目標を実現する為に残された時間は10年と少々となった。日本BPW連合会は、これまで、香川、和歌山、札幌でそれぞれの地方都市が抱える問題を踏まえて、SDGsが提唱する男女平等を『フィフティ・フィフティ』という表現で取り上げ議論を進めてきた。今回は、特に日本の鎖国時代に唯一世界に門戸を開き、開港から447年の国際交流という歴史・文化という背景のある長崎で、将来を見据えたシンポジウムを開催する意味を重視した。

明治維新以降、海外との唯一の窓口だった長崎だが、それから150年、その役割は変化し、高齢化の進む日本最西端の地として、活気を失いつつあるのも事実である。しかし、今、長崎は再び地元パワーを中心に、新しい役割を持って動き出そうとしている。その重要な役割を果たすのがSDGsの多様性の持つエネルギーであり、多様性は女性の参加で始めて実現すると考えられている。SDGsとは、様々な個別の課題をあげているが、それが相互につながることによって、実現するからである。

今回のシンポジウムでは、スピーカーから男女共同参画やSDGsに関連する話を聞き、長崎県出身者からの問題提起を踏まえ、来場者全員が、「仕事・産業・経済」、「政治・行政」、「教育」、「地域・家庭・コミュニティ」の4つのテーマに分かれて、意見交換を行い、その結果を発表した。また、その結果をもとに、『長崎アピール』を採択したい。それを踏まえて、男女平等社会が男性にも女性にも自分らしく生きられる社会であること、地域を活性化するだけでなく、その意識が国際社会の暮らしやすさの改善にもつながるとの認識をもって、行動に移す機会としたい。

**【日 時】** 平成30年12月1日(土) 午後1時20分～午後4時30分

**【場 所】** 長崎県庁 1階 大会議室

**【参加者数】** 参加者：133名(定員：100名)

(内訳) 一般参加者 81名(当日参加者 18名)

BPW会員 45名

登壇者 7名

※男性 19名(14%) 女性 114名

### 【プログラム】

・13:30～13:35 主催者挨拶等

・13:35～14:45 《トーク&トーク》#1 60分

出演：内閣府男女共同参画局

池永 肇恵局長



国立大学法人・長崎大学前学長 片峰 茂氏

(有)SDGパートナーズCEO 田瀬 和夫氏

コーディネーター:認定NPO法人日本BPW連合会理事長 平松 昌子

・14:55～16:00 ≪問題提起≫ ≪グループ・ディスカッション≫

≪問題提起≫#2 問題提起者 星野建設(株) 代表取締役 星野 親房さん

メトロ書店 常務取締役 川崎 綾子さん

長崎大学医歯薬総合研究科医工連携 吉田衣里さん

≪グループ・ディスカッション≫#3

全体コーディネーター:BPW長崎クラブ会長 黒崎 伸子

アドバイザー :内閣府男女共同参画局

池永 肇恵局長

(有)SDGパートナーズCEO

田瀬 和夫氏

長崎大学前学長

片峰 茂 氏

認定NPO法人日PW連合会理事長 平松 昌子

#1 ①内閣府男女共同参画局の池永肇恵局長からは、まず、日本のGGI（ジェンダー・ギャップ指数）が144か国中114位と非常に低いのは、政治分野と経済分野の問題であることを指摘し、現状の課題とそれに対する法整備などについて説明があった。特に、女性活躍推進法によって、事業主や公共団体は（数値目標を含む）行動計画制定が課され、経済分野での女性活躍の推進を図っていることや、新たな政治分野における男女共同参画推進法などの説明があった。

②長崎大学前学長の片峰茂氏は、『グローバル化時代における（地域）多様性の意味』と題して、長崎の歴史的背景を踏まえ、かつ、地球規模のさまざまな課題に対して取り組める人材育成や具体的なプロジェクトの実施状況などについて報告した。

③SDGパートナーズCEOの田瀬和夫氏は、第2次世界大戦直後に平和構築を目的に始まった国際連合は、人権重視の姿勢から、持続可能性に取り組んだという経緯のなかで、より大きな自由の中でというテーマで2015年に採択されたSDGsについて、『日本がSDGsを実現するために要となる女性のエンパワーメント』という話をした。SDGsの17の目標や169のターゲットを個別に追うのではなく、リンケージを理解し、「レバレッジポイント」に気づくことが大事であること、これをビジネスモデルに導入する中小企業や地方自治体の例を紹介した。また、日本で最も重要な論点の一つが、目標5のジェンダー平等とWEPsであり、これが日本のレバレッジポイントとなることや、また、ESG投資などにおいてもジェンダーと多様性に関する要請が日に日に強くなってきていると強調した。

(注)・WEPs (Women's Empowerment Principles) 女性が可能性を十分に発揮し、能力を高め、それを評価されて、活躍できるための原則。有名企業の拡大を目指して活動

・ESG: 環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) の頭文字、企業の長期的な成長のためには、ESGが示す3つの観点が必要だという考え方

#2 ①星野親房氏（星野建設(株) 代表取締役）は、建設業への女性採用について、最初はおそろおそろ採用したが、「案ずるより産むが易し」で、平成24年度から女性の土木現場担当者として活躍（平29年度長崎県優秀若手建設技術者表彰で、長崎県で初めて女性土木技術者が表彰を受け、現在も活躍中）していることを報告した。そして、「おっさ

ん上司」的発想ではだめで、まだ、現在はうわべだけでの女性活躍なので、これからも、企業・組織のシステム全体の見直し、整備が必要と話す。

②川崎綾子氏（メトロ書店 常務取締役）は、『書店での読書推進活動を通じて感じる社会』と題して、読書という新しい世界や考えを知ること、世界平和が生まれ、書店は異なる世界をつなぐ中継点だと考えていることなどを話した。

③吉田衣里氏（長崎大学医歯薬総合研究科医工連携）は、ポルトガルでの研究生活から、『ポルトガルでの学び ～外国から見た長崎・日本～』と題して話した。「真面目で丁寧な日本人」に対し、「陽気で明るく、合理的で挑戦心のある人達」が起こす化学反応を感じたこと、「日本人、長崎県民」から「地球人、日本民」となって、「個人」として動き、接したこと、そして、今は、世界を見渡し、地球人として、自分の経験・好きなことを使って、何ができるか考えていることなどを話した。

#3 参加者全員が、「仕事・産業・経済」、「政治・行政」、「教育」、「地域・家庭・コミュニティ」の4つのテーマごとに2グループずつに分かれ、全部で8つのグループをつくらせて、話し合った。全体コーディネーターの進行に沿って、B P W会員および地元の代表者が、各グループにおけるファシリテーターとして、より多くの人の多様な意見を聞きながら、円滑なディスカッションとなるように努めた。具体的には、①12年後の2030年に達成したいゴール・夢を選び、②その実現を阻む壁について考え、③それを乗り越えるための方法について、議論した。最後に、各グループが、1枚のフリップボードに議論のキーワードを書いてもらった。

#### ・16:00～16:30 討論結果発表と長崎アピール採択

全8グループの発表者が壇上にあがって、フリップボードを見せながら、討論内容について報告して、会場全体と共有した。その結果をもとに、ファシリテーターが『長崎アピール』（案）を提案して、採択した。

#### 【参加者のおもな感想・意見】（アンケート等から）

- ・男女参画について、SDGsについて話がきけて、またそれぞれのお話が日常でいつも考えることで勉強になった。
- ・変化、多様性、波及させていくこと…とても深い学びの機会となりました。ありがとうございました。
- ・SDGsの考えについて、新たな角度かあらのお話を聞けて良かった。
- ・SDGsはwell-beingへの言及があったことを知っておどろいた。
- ・SDGsについて、もっと学びたいと思った。
- ・(グループ・ディスカッションについて) 楽しかったです。時間が足りない。／時間が短く、グループの人数が多かった。／男性参加者が少なかったのも、まずフィフティ・フィフティの参加者をめざすことが大事（周りの男性のまき込み）／こうやって多様な人と意見を交わすということ自体がよい経験でした。
- ・(シンポジウム全体について) 新しい考え方、活発な意見交換、長崎ではなかなかない経験でした。／場所が開かれた所で雰囲気がよかったと思う。／新たな視点で今を考えられたと



思います。

## 【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

### 〈成果（効果）〉

- ・『長崎アピール』を採択することができた。この『長崎アピール』は、内閣府はもとより、長崎県、長崎市、長崎労働局、共催団体、後援団体、協力団体等に伝達し、県・市庁内、関係企業・組織内などに周知することになっている。同時に、『長崎アピール』の実現に向けて、関係機関に協力いただけるように依頼するとともに、B P W長崎クラブおよび日本B P W連合会も、その実現のために事業を展開していくことを確認した。
- ・アンケート集計から、「とても良かった」「良かった」を合わせると、シンポジウム全体が91.5%、「トーク&トーク」97.6%、「グループ・ディスカッション」83.4%、「発表と長崎アピール採択」80.9%と、比較的いい評価を得た。物足りなかったという意見が多いのは、各時間配分が足りなかったと要素がコメントから多くみられて、参加者の満足度は高かったと思われる。また、「今後のあなたの行動」の参考になったかとの間で、「とても参考になった」「参考になった」を合わせて89.3%であることから、参加者一人ひとりがこのシンポジウムから何らかの示唆を得たことがわかる。地方都市で、男女平等の問題を、今回のようにSDG sのような社会全体の多様な分野につながっていくことを考える機会は少ないので、今後も今回の成果を、他団体や他分野と協働して、次の行動に生かしていきたい。
- ・アンケート結果のなかにも見られたが、長崎の現状に危機感を持っている人が多いの事実で、今回の講師たちの発言が、そのような参加者たちの今後の行動などに変化をもたらす契機になったのでは、ないかと思われる。

### 〈課題〉

#### （参加者について）…アンケートから

- ・全体参加者数は定員を上回ったが、アンケート回収結果からは、50歳代・60歳代の参加者が53.6%と半数強で、あとの20歳代～70歳代以上はそれぞれ1割前後とやや少なかった。将来に向けての議論をするには、より若い世代の参加を促す必要があるという点が課題として残った。
- ・共催や後援団体、協力団体を地元経済団体をお願いしたにも関わらず、男性参加者が非常に少なかった。

#### （企画について）

- ・会場確保の都合で、12月開催となり、集客にかなりの不安のある中での開催ではあったが、定員を超える参加者を得たのは、トーク&トークの講師の多様性と“SDG s”という重要なテーマを主要課題にできたことにあるのではないかと考えている。
- ・グループ・ディスカッションの時間が足りなかったという意見が多く聞かれた。あまり、多種多様な人たちが初めて出会った場で、議論をすることが非常に少ないにも関わらず、参加者が前向きにとらえてもらったことから、今後は、この時間帯の構成・進行に工夫が必要だと思われる。
- ・長崎県の会場提供と、事前のサポートに非常に感謝している。

(開催までの準備段階において)

- ・共催団体採択から受託会社決定までの期間をもっと短縮していただきたい。

受託会社決定から具体的に準備が進むのでは広報が遅れるとの考えから、事業採択後独自でチラシを作成し、広報、集客にあたったが、受託会社決定後にチラシ作成から始めると広報が間に合わないのではないかと考える。これは、前年度も課題として出されていたのと同じである。

(長崎アピール実現に向けて)

- ・今後は『長崎アピール』を、様々な分野に発信するとともに、その実現に向けて活動を進めていく。
- ・今回のテーマ、特に男女平等とSDGs、と関連したシンポジウムの開催を視野に、他団体や地域の人々とともに行動を続けていきたい。その中で、より広い世代や分野における意識改革を促し、「203050フィフティ・フィフティ」の実現につなげていきたい。

### 【今後の課題】

・日本の最西端で、多様性の強い長崎県は、加速する高齢化や人口減少で将来への危機と地方格差（ハンディ）をより強く感じている中で、真の男女平等の推進という課題に人が集まってくるのかという不安があったが、SDGsというキーワードを前面に出し、SDGsに精通した講師を迎えることができ、より理解を深める機会を提供できた。これからは、世界につながるようなキーワードで、より幅広い層（年齢、ジェンダー、職種、関心など）に、男女平等について考えてもらえる努力が必要であると思われる。

・今回、グループ・ディスカッションでまだまだ議論したかったという声をきいたので、今回の学びを、これからも継続して議論して、確実な成果をあげられるような次のステップまで持つて行く必要があるのではないかと考える。

○トーク&トーク



田瀬 和夫氏(SDGパートナーズCEO) 片峰 茂氏(長崎大学・前学長)

○グループ・ディスカッションと結果発表



## 《長崎アピール》

2018年12月1日のシンポジウム《「女性の活躍！ 長崎から世界へ～フィフティ・フィフティをめざして～」みんなが元気になる一街を 世界を 創る》において、「仕事・産業・経済」、「政治・行政」、「教育」、「地域・家庭・コミュニティ」の4分野についてそれぞれの視点からグループで話し合った結果、すべての分野で男女の格差なく(フィフティ・フィフティ)で活躍できる社会をめざして、以下の長崎アピールを採択しました。

450年前から世界と繋がり、知識・技術・文化・人を受け入れ育み国内外に貢献してきた長崎が先頭に立って、多様性の尊重とアンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)の排除を進める。そして、すべての分野で男女の格差なく(フィフティ・フィフティ)で活躍できる社会、男女を問わず一人ひとりが自分らしくいられる社会を目指す。そのためには、次世代へのつなぎを重視したSDGs(持続可能な開発目標)の視点をもって、より多くの人が幸せを感じることができる世界を実現する。

【仕事・産業・経済】の分野では、

- ・多様な働き方を選択できるように、様々な立場の人とのコミュニケーションのある職場をつくる
- ・女性が活躍する社会が平和を創ることを認識し、企業や組織のトップが変革をリードする

【政治・行政】の分野では、

- ・ジェンダー・バイアスの排除にむけた相互理解の場をふやす
- ・「クオータ制」「ポジティブ・アクション」を導入し、2030年までに女性議員を40%以上をめざす

【教育】の分野では、

- ・教育における格差をなくし、夢を叶えられるキャリア教育やエンパワーメント教育を促進する
- ・一人一人の個性を尊重できる教育、特に政治に関する当事者教育を

【生活・家庭・コミュニティ】の分野では、

- ・世代による偏見やギャップをなくし、自分らしく生きられる平和な生活を実現する
- ・生活・家庭・コミュニティをレバレッジポイントととらえ、家庭や地域でもSDGs実現をめざす

# (来たれ、リーガル女子! ~女性の弁護士・裁判官・検察官に会ってみよう! ~)

(報告)

**団体名 主催：内閣府、男女共同参画推進連携会議、日本弁護士連合会、九州弁護士会連合会、福岡県弁護士会、日本女性法律家協会、西南学院大学法科大学院、鹿児島大学司法政策教育研究センター、九州大学法科大学院、熊本大学法曹養成研究科、福岡大学法科大学院、琉球大学法科大学院、早稲田大学大学院法務研究科**  
**後援：全国都道府県教員委員会連合会**

## 【開催趣旨・目的】

政府の「第4次男女共同参画基本計画」は、司法分野における施策の基本的方向として「法曹三者それぞれにおいて30%目標に向けた取組を加速していくため、法曹となり得る人材プールを拡大すべく、法曹養成課程において女性法曹養成に向けた取組を進める。」とし、日本弁護士連合会も「第二次日本弁護士連合会男女共同参画推進基本計画」中「3弁護士における女性割合の拡大と女性弁護士偏在の解消」において「⑧弁護士を目指す女子学生・生徒の裾野を広げるべく、大学や高等学校をはじめとする教育機関や女子学生等に対し、女性弁護士に関する情報提供を行う方策を検討し、実施する。」との具体的施策を掲げている。

しかしながら、司法試験合格者に占める女性割合は平成24年の25.9%をピークに顕著な増加はなく、逆に平成29年の合格者の女性割合は20.41%と減少している。現状、「法曹三者それぞれにおいて30%」という上記政府目標達成の見込みはないといわざるを得ない危機的状況である。上記政府目標を達成するには、まず、法曹を志望する女子学生を大幅に増加させることが不可欠である。

そこで、将来の進路を考える女子中高生及びその保護者に対して、普段の生活ではあまり接することのない女性法曹と触れ合う機会を設け、法曹の仕事の魅力やワークライフバランス・収入面・就職状況などを女性の視点から生徒たちに伝え、意見交換を行い、将来の進路選択の有力な選択肢として法曹を考えてもらうことを目的とし、本シンポジウムを実施した。特に本年は、これまでの東京や大阪の大都市だけでなく、女性法曹と交流できる機会が少ない各地の女子中高生にアプローチをしていきたいと考え、福岡県での実施となった。県内の全弁護士に占める女性割合は17.4%（2018年4月1日現在）で、政府の「第4次男女共同参画基本計画」に掲げられている女性割合30%には届いていない。そのため、女性法曹の増加が喫緊の課題である。

今回は、九州地区の中核都市である福岡県で開催することによって、九州地区の女子中高生やその保護者に、実際に活躍する女性法曹と直に触れあってもらうことで、女子中高生に対してはより高度な教育や専門性にチャレンジするスピリットを、保護者に対しては女子中高生のチャレンジを応援する意識を、それぞれ醸成することも視野に入れ企画を行った。

【日時】 2018年11月3日（祝・土）13時～16時30分

【場所】 西南学院大学法科大学院棟

【参加者数】 93名（内訳：学生58名、保護者・教員35名）  
鹿児島会場（鹿児島大学）：7名（内訳：学生5名、保護者・教員2名）  
沖縄会場（琉球大学）：40名

## 【プログラム】

### <第1部>

13時15分～（大講義室）

基調講演「弁護士になってよかった！」

講師：原田 直子弁護士（福岡県弁護士会）

コーディネーター 石田 淳弁護士（福岡県弁護士会）

### <第2部>

13時45分～（大講義室）

パネルディスカッション「女性法律家のさまざまな働き方」

パネリスト：藤田 光代判事（福岡高等裁判所）、吉岡 和美検事（福岡地方検察庁）

杉原 知佳弁護士（福岡県弁護士会）

コーディネーター：小倉 知子弁護士（福岡県弁護士会）

### <第3部>

14時35分～

○保護者・教員対象：説明会「法曹という職業選択について」（大講義室）

説明者：藤田 光代判事（福岡高等裁判所）、吉岡 和美検事（福岡地方検察庁）、

宇加治 恭子弁護士（福岡県弁護士会）

○学生対象：グループセッション

刑事①（講義室16）

講師：塩村 広子検事（福岡地方検察庁）、平岩 みゆき弁護士（福岡県弁護士会）

羽田野 桜子弁護士（福岡県弁護士会）

刑事②（講義室13）

講師：杉山 朋美検事（福岡地方検察庁）、三好 有理弁護士（福岡県弁護士会）

高木 百合香弁護士（熊本県弁護士会）

民事家事①（講義室15）

講師：今泉 愛判事（福岡地方裁判所）、佐川 民弁護士（福岡県弁護士会）

吉野 泉弁護士（福岡県弁護士会）

民事家事②（講義室12）

講師：富張 真紀判事（福岡家裁裁判所）、柏熊 志薫弁護士（福岡県弁護士会）

小牧 奈穂子弁護士（福岡県弁護士会）

企業法務・組織内弁護士（講義室16）

講師：家永 由佳里弁護士（福岡県弁護士会）、安永 恵子弁護士（佐賀県弁護士会）

本間 綾弁護士（福岡県弁護士会）

国際業務（講義室14）

講師：高瀬 朋子弁護士（大阪弁護士会）、塩飽 梨栄弁護士（福岡県弁護士会）

憲法・人権（講義室15）

講師：國府 朋江弁護士（福岡県弁護士会）、一宮 里枝子弁護士（福岡県弁護士会）

前田 牧弁護士（福岡県弁護士会）

【参加者のおもな感想・意見】（アンケートから）

<第1部>

「弁護士というのは、社会を変えることができるし、人の役に立てると聞いて、自分がやってみたいと思いました。」（中学生）／「昔は、求人が男性のみという時代だったと知り、とても驚きました。でも、そのような時代でも法曹のお仕事は男性も女性もほとんど平等だったと知り、さらに魅力を感じました。」（中学生）／「女性が弁護士になることは企業で働くことよりも大変だと思っていたがワークライフバランスをとりやすいことが分かって驚いた。」（高校生）／「「弁護士とは何か」を深く知ることができた。」（高校生）／「とてもやりがいのある職務であることが伝わってきた。」（保護者）／「弁護士の各人のライフステージでの話が伺えてよかったですと思います。特に女性は子育て等プライベートと仕事のバランスの話が参考になったと思います。」（保護者）

<第2部>

「検事の仕事や、裁判官の仕事の事をあまり知らなかったもので、また新しく知しきをみにつける事が出来て良かったです。」（中学生）／「検察官、弁護士、裁判官ととても幅広く聞いて、自分の職業選択の幅も広がった。」（高校生）／「法律家はどんな仕事をするのか、プライベートの時間はあるのかなど細かく話を聞いておもしろかった。テレビの影響で法律家になりたいと思ってなったという方もいて、より身近な存在に感じられてとても楽しかった。」（高校生）／「私も子供の頃にこのシンポジウムに参加していたら、現在変わってたかも…と強く感じました。この様な機会が学校生活でとても少なく（ない状況）もっともっと、色々なお子さんに参加する機会があれば将来の夢、選択も変わるのではと思いました。素晴らしいシンポジウムに参加出来た事を感謝申し上げます。」（保護者）

<第3部・グループセッション>

「『日々勉強していく』というのはとても大変そうだなと思いました。英語を今のうちに勉強しておこうと思います。弁護士に対する憧れが増しました。」（中学生）／「国際業務の仕事の



とても深い部分に入る事ができて良かったです。」(中学生) / 「知らなかったことをたくさん知れたし、実際に働いている方の声を直接聞くことで更に考えさせられた。」(高校生) / 「普段弁護士や検事の方とお話する機会なんてそうそうないのでとても良い機会だった。学校での勉強をもっと頑張ろうと思った。」(高校生) / 「弁護士・裁判官の具体的な仕事や仕事をしていくうえでの大変だったことややりがい等が聞けてよかった。」(高校生)

### 【シンポジウム等を通して得た成果（効果）】

中高生が実際の法曹と接する機会はほぼ皆無である。そのため、直接法曹と接する機会を設け、その仕事内容・やりがいにも留まらず、ワークライフバランスの実態を伝えることは、広く後進を募るために有意義である。

本シンポジウムは東京、大阪に続いて3回目の開催であったが、参加者へのアンケートの回答率が高いこと及び下記のアンケート結果のとおり、法曹に対するイメージも良好で、法曹を中高生の職業選択肢の一つとしていただけただけことから、シンポジウムの狙いが実現できたと実感している。

今回は、九州の弁護士会と地元法科大学院等のネットワークを活用し、九州内の複数の大学間でシンポジウムの「インターネット中継」を実施した。「インターネット中継」は初めての試みであったが、「実際の法曹の話を知りたい」との要望が多いことが確認できたため、次年度以降も同様のシンポジウムを実施する際には検討したい。

加えて、福岡県弁護士会と地元法科大学院のネットワークを利用し、開催校以外の法科大学院の教員にも保護者・教員対象の説明会に参加いただき、法科大学院への進学についての具体的な説明をすることができた。そのため、保護者には子どもが法科大学院への進学を希望した際に、学費等の面からみても応援できそうだとの実感を持っていただくことができた。

以上のような成果から、女子中高生と保護者を対象とした本シンポジウムを継続的かつ全国的に実施していくことが今後の課題と考えている。

また、一度、本シンポジウムを開催すると、次年度にも同様のシンポジウムを開催した際に、前年度の開催地においてシンポジウムのインターネット中継の機運も高めることができる。次年度に実施する際には、今年度開催した福岡県において弁護士会館を会場としたインターネット中継を行い、女子中高生を対象としたシンポジウムの開催を企画している。その効果の継続的拡大も見込まれる。

今後は、インターネット中継も活用した同様のシンポジウムを継続して行えるよう検討を続けるとともに、女性法曹拡大のための取組も行っていきたい。

### ＜（法曹のイメージが）変わったというアンケート結果＞

「難しそうなしごと」→「明るく働きやすく、シンポジウムでの話は面白かった。」(中学生) / 「転勤が多く、堅苦しいイメージがありました。」→「どの方もとても優しく質問に答えて下さり、全く違う世界の方々だと思っていましたが、そうでないと分かり、良かったです。」(中学生) / 「人とあまり関わりを持たない」→「自分の思うとおりに活動ができ、面白そうだと感じました」(中学生) / 「まじめでおかしい感じ」→「ユーモアがあって明るい」(中学生) / 「様々な事件を担当するので、クールでサバサバしているイメージがあった。」→「話もおも

しらく、明るいイメージになった。」(高校生) / 「言葉に対して厳しくて、真面目なイメージ」→「人生を充実させているような感じがしたし、話しやすかった。」(高校生) / 「とても真面目な人」→「明るく、目的意識がはっきりしていると思った」(高校生) / 「やっぱり女性には厳しい世界なのだろうと思っていた。」→「女性も男性と対等に活躍できると知って驚きました」(保護者)

### <法曹の(イメージが)変わらないというアンケート結果>

「すごい人」→「やっぱりすごいなと思うのに変わりはない。でも明確なイメージを持つことができた。」(高校生) / 「被害者と共に真実を見つけ、また一緒になってどうしていけばよいかを考えてくれるカッコいい人たち」→「やっぱり大変なことも多いんだなと思った。だけど、充実しているんだなとも感じた。」(高校生)

### <どちらとも言えないというアンケート結果>

「なるのが難しい。カッコいい。」→「なるのが難しいという点ではグループセッションで、そんなに大変ではないとおっしゃられていた。また、今まで以上にかっこいいと思うようになりました。」(高校生)

### <全体その他の感想>

「この機会に参加して本当によかったです。『やってみようかなあ…。』ぐらいだったけど、この会に参加して『やってみよう!』と思いました。」(中学生) / 「とても楽しく、有意義な時間を過ごすことができました。また参加できたらいいなと思いました。」(中学生) / 「今日は、いろいろなことを学べて、充実したし、楽しい時間をすごせました。法曹の道へ進みたいなとも思いました。」(高校生) / 「貴重なお話を聞く機会を娘に、また保護者に与えて下さって感謝しております。これから進路を決定するのに大変参考になりました。」(保護者)

## 【今後の課題】

### 1 本シンポジウム全国的に広げていくこと

2016年度は東京で、2017年度は大阪で開催し、今年度開催の福岡においても好評を博した。しかし、女性弁護士のニーズは各地方にあることから、次年度以降も高裁管内の各ブロックの地方で、継続的に開催することが望ましく、2019年度は愛知県での実施に向けて、検討を進めている。

これまで3回の実施の過程で、企画のノウハウは蓄積されていることから、多様な地域で継続的に開催することは可能である。

### 2 関心を今後につなげること

本シンポジウムにより、法曹の道に関心を持った、また持ち始めた中高生の思いをそのまま引き継ぐにはどうすれば良いかを考えることも今後の課題である。法学部に進学してもロースクールに進学しない学生、ロースクールに進学しても司法試験を受験しない学生も多数いることから、学生の目を法曹に惹きつけられるような更なる取組を考えていくことも今後の大きな課題である。

以上

## 若草プロジェクト in KYOTO 公開シンポジウム

### 若年女性・少女をいかに地域で支えるか 生きづらさからの脱出

#### 【開催趣旨・目的】

貧困や虐待、家庭崩壊、DV、いじめ、性的搾取など、さまざまな社会が抱える問題に苦しむ少女や若年女性がいる。しかし彼女たちの「生きづらさ」の問題に対して、多くの偏見や誤解があり、十分な支援がなされていない現状がある。このような支援の行き届きにくさに対して、若年女性や少女の一部の受け皿になっているのがネット社会（SNS）や風俗産業である。家庭・学校・地域社会の崩壊でつながりが希薄化する現代社会において、「居場所」がない少女たちの心の拠り所となっているのが、それらのネット社会や風俗産業であるという側面もある。

このような状況のなか作家の瀬戸内寂聴さんや村木厚子さんが代表発起人となって立ち上げた少女を支援する「若草プロジェクト」に賛同し、京都府下で取り組むべく平成28年7月に立ち上げたのが「若草プロジェクト in KYOTO」である。彼女たちの孤立を防ぎ、犯罪の被害者にも加害者にもしないために、地域のなかで、①少女たちを理解し支援する大人を増やす、②生きづらさを抱える少女に寄り添い支援する、③少女に居場所をつくることを柱として活動している。

公開シンポジウムは少女たちの問題を理解する「信頼できる大人」を増やす目的で開催する。困難を抱える現状といま生きづらさを抱える少女へのメッセージを発信するとともに、地域の中で少女の孤立を防ぎ、伴走者となり自立を支えるにはどうすればいいのかを考える場とする。

【日時】 平成31年1月26日（土）13時～16時45分

【場所】 同志社大学寒梅館ハーディーホール

【参加者数】 269名（一般141名 関係者128名）

【主催】 内閣府、男女共同参画推進連絡会議、京都府更生保護女性連盟

【共催】 同志社大学ソーシャルウェルネスセンター

【後援】 京都府、京都市、京都新聞、KBS 京都、NHK 京都放送局、京都保護観察所、京都府保護司会連合会、京都市保護司連絡協議会、京都府更生保護協会、京都 BBS 連盟、京都府社会福祉協議会、京都市社会福祉協議会、京都府教育委員会、京都市教育委員会、京都市 PTA 連絡協議会

【プログラム】

13:01～14:20

<第一部> 生きづらさのそのさきに

- ・セーラー服の歌人の鳥居さん・短歌を詠む
- ・少女に生きづらさを語る

鳥居×高橋直紹（特定 NPO 法人子どもセンターパオ事務局長、弁護士）

14:35～16:20

<第二部> 共に歩むために

- ・パネルディスカッション

《コーディネーター》

志藤修史（大谷大学社会学部教授）

《パネリスト》

山下耕平（フリースクールフォロ事務局長）

松浦知恵（バザールカフェ理事）

藤本遼（尼崎 ENGAWA 化計画代表）

16:20～16:45

- ・ゲストスピーチ 家入一真（クラウドファンディング CAMPFIRE 代表）

<閉会>

新川達郎（同志社大学大学院総合政策科学研究科教授）

【参加者のおもな感想・意見】（アンケートから）

- 様々な立場の人が生きづらさについて語り、具体的に何ができるのか、考えるきっかけとなった。多様な経験の人たちがそれぞれの立場から話すことで、何か生まれることがあるのではと感じた。
- 自分の昔の生きづらさと、今の若い人たちの生きづらさに大きな違いがあると思った。自分が生きていた時代も戦後の貧しい時期であったが、家族が助け合い心は豊かだった。
- 教育に携わっている人にも参加してもらいたい。盛りだくさんな講演・ディスカッションで充実した内容、キャパを超えました。
- 少女のみならず、なんとなくみんな生きづらさを抱えている時代であると感じた。個人を大切にしすぎた結果、人のつながりを軽薄にしたのではないかと思う。
- 若い人の力を感じるあついシンポジウムだった。仲間、時間、空間の3「間」を大切にすることを学んだ。
- 「お金が必要」と切実な思いを正直に語ってくださったのがとても良かった。本音が聞

けた。「支援臭」面白かった。

- 鳥居さんの力強い、本音の話が心に残った。
- 誰もが持つ権利すら知らない若者を作ってしまった大人社会。全ての子供が人間らしく生きることができる環境にする必要があると思った。
- パネリスト、それぞれの皆さんの話に共感した。分野は違うけれど全ては繋がっていることがわかった。
- 生き方を考えさせられるような、人生勉強になる研修だった。
- 家入さんの話が印象的だった。居場所だけでなく役割を与える話、参考になった。
- 価値観の違う人とどのように関わることができるのか考えた。人と自分の価値観が違うことをはっきりさせることも必要かと思った。人の評価からの解放、精神の自由を確立できるよう助けたいと思った。
- いろんな人が集まってフロアに降りたゲストをつなぎ、振り返り、今日全体が混じり合う感じが良かった。
- 生きづらさをもう少し掘り下げて欲しかった。もう少し焦点を絞り深く話を進めて欲しかった。もっと話を聞きたかった。全体にぼやけた感じで心に残ることが少なかった。
- もっと若者や女性も参加できる内容にしたらどうか。

#### 【少女を地域で支えるためには何が必要か】（アンケートから）

- 信用を得ることが一番大事。あいさつを交わし、微笑みを交わし、冷えた心を溶かす温かさを伝えられたらと思う。共感のアンテナを張ることが大切。
- やってみることが大切。「人」が大事。
- 出たり入ったりする集まりの場所。ひとごとでない関係、空間、仲間との出会い。
- 地域のゆるやかで温かな、おせっかいネットワーク。「おかえりなさい」の気持ち。
- 生きづらさへの理解。一人の人間として関わることができる関係や場所。
- やさしいきもち、社会とたたかうゆうき、つながりを発信すること わかちあおうとするきもち、じぶんと向き合うゆうき、となりのひとをたいせつにすること
- 少女がどんな困難を抱えているのか理解すること。成績だけの評価でなく人間性を豊かにする教育が必要。そして皆が互いに理解し、共感し、助け合える世の中になること。人の苦しみ、悩みに敏感な心を養うこと。全ての人が愛し合う世の中になること。

#### 【課題とこれからの目標】

- 内閣府と共催することで、更生保護関係者だけではなく、学生や若者、支援の現場の方々、その他大勢の人たちに関心を持ってもらう機会となった。しかし告知期間が短く、また

大学やメディアへの広報ができず、十分な周知が行き届かなかった。また来場者に対して、次へのアプローチを用意しておらず、せっかくの機会を生かし切れなかった。関心を持ってもらった層に対し、今後いかに巻き込んでいくのが課題である。

- 少女の生きづらさという理解しにくいテーマに対し、当事者や様々な立場の支援者のメッセージを発信することで、参加者の多くが理解し共感する場となった。活動の励みとなるとともに、地域での展開の可能性を感じることができた。一方で、テーマ、ターゲット等を広く設定したため、内容が深まらず、時間が足りない、もっと深く知りたい等の意見が見られた。
- 「支援でない支援」「ひきこもりの生きづらさ」「起業」「お金の問題」「自己肯定感」等々、議論のなかでこれから深めていく課題が見えてきた。問題提起の機会として、これらの課題に対して、掘り下げて、話し合う場を来年度の事業として取り組んでいく。
- 登壇者からも「社会が抱える問題を話すだけでは解決にならない。だからどうするのか、実現に向けた活動が必要」「登壇者の一方的な講演ではなく、参加者と一体となった場を作らなければならない」との意見が出ており、来年度からは、同じメンバーで、公開の円卓会議をしながら、ひとつひとつ丁寧に議論し、具体的な活動へと繋がるきっかけを模索する予定である。
- 生きづらさを抱える若者を地域で支えるにはどうすれば良いか？の問いに対して、参加者がそれぞれの立場で考える場になった。地域に信頼できる大人を増やす一歩となった。
- シンポジウム後に開催したワークショップでは、高校生や大学生、生きづらさを抱えている若者等が参加し、今抱えている問題に対して話し合う場となった。彼らに対して、メッセージが届いたことは、大きな意義があった。今後もひとりひとりの生きづらさに向き合い、寄り添う活動を展開していきたい。
- シンポジウムの中で、若草プロジェクトの社団法人化と、また若草プロジェクトが掲げる未来と活動の内容を周知することができた。多くの賛同をいただいたことは新たな活動への勇気となり、記念すべき日となった、この場を作ってくださった内閣府の皆さん、コーディネーターの志藤先生、登壇者の方々、制作のみなさん、参加された多くの方々に感謝を申し上げます。

#### 【備考】

本プロジェクトは、シンポジウムの他に、以下の活動を実施した。

- 更生保護女性会員研修「若者の生きづらさとは何か」  
計7回の研修と各地域の学区でのミニ集会
- わかものの居場所「イマリビ！」の開設（H30.10-H31.3）



伴走型支援を学ぶとともに、児童養護施設への子ども食堂、当事者や支援者たちが語り合う居場所を提供した。

- フリーペーパーの発行

生きづらさに対する地域活動の必要性と、シンポジウムの内容を掲載

# 自分を受け入れ自分を認め、一歩踏み出す

## 「キキ」の魅力と「自己肯定感」

(報告)

**団体名** : 特定非営利活動法人 国連ウィメン日本協会

### 【開催趣旨・目的】

内閣府の「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（平成 25 年度）」によると、日本の若者の自己肯定感は、諸外国に比べてかなり低く、「自分に満足している」と答えた日本の若者は 45.8%にすぎない。文部科学省による『我が国の子どもの意識に関するタスクフォース』の報告でも、「日本の子どもは学力がトップレベルであるにもかかわらず、自己に対する肯定的な評価（自己肯定感）が低い状況にある」と分析されている。

また、女性のセルフエスティームの普及を目指している民間の協会では、「男性に比べて、女性は自己肯定感が低くなる傾向がある」とし、その原因として、「日本特有の社会的影響などもあるが、日本人女性がとても優しく、相手の気持ちを思いやる想像力に長けているからでもある。自分自身の事を考える前に、相手の感情に影響を受け、自分の意見を言えなかったり、自分の感情を押し殺したりする習慣が、積もり積もって自己肯定感の低さに繋がっていたりすることもある」としている。

日本人では 3 人目の快挙となる 2018 年度国際アンデルセン賞作家賞を受賞した角野栄子氏の代表作、『魔女の宅急便』の登場人物、魔法使いのキキは、大人の読者をも魅了せずにはおかない主人公である。それは、キキがまさに「自己肯定感」の高いヒロインだからであろう。

そのような魅力的な主人公はどのように誕生したのか。角野栄子氏に、キキのイメージに託された思いを伺い、「自己肯定感」を自分事としてより身近に、確かに感じられる場を創出する。そして経験豊富なパネリストの鼎談へとつなげ、今、何かしら生きにくさや心理的葛藤などを抱えている女性と少女の思いを多角的な観点から見つめ、「自己肯定感」を高めるには何が必要か、ともに考え、共有する。国連が掲げる持続可能な開発目標 203050 アジェンダを達成するには、まず女性と少女が生き生きと活躍する社会の実現こそ、喫緊の課題だからである。

### 【日時】

2018 年 12 月 1 日（土）

### 【場所】

津田塾大学（千駄ヶ谷キャンパス）広瀬記念ホール

### 【参加者数】

258 人（主催者関係者人数 16 人、一般（①以外的人数）242 人）

## 【プログラム】

### 14:00 開会

挨拶 特定非営利活動法人国連ウィメン日本協会理事長 有馬真喜子（ありま まきこ）

### 14:05 基調講演 （45分）

#### キキの物語

作家・「魔女の宅急便」シリーズ著者 角野 栄子（かどの えいこ）

### 15:05 鼎談 （80分）

#### 自己肯定感をはぐくむには

昭和女子大学理事長・総長 坂東 真理子（ばんどう まりこ）【兼コーディネーター】

日本医科大学特任教授・医学博士・エッセイスト 海原 純子（うみはら じゅんこ）

RIZAPグループ株式会社代表取締役 松本 晃（まつもと あきら）

### 16:25 閉会

挨拶 特定非営利活動法人国連ウィメン日本協会理事 鷺見八重子（すみ やえこ）

## 【参加者のおもな感想・意見】（アンケート等から）

### ◎基調講演

- ・もっと話がききたかったです。 想像力、考える事、大切にしたいです。
- ・角野さんのチャーミングさがステキでした。 魔女の宅急便の本も読み直してみたいです。
- ・自己肯定感、イコール前向き思考と考えていましたが、ネガティブな想像も肯定してもいいんだなというお話が心に残りました。
- ・先生の本はまだ、読んだことはありませんが、先生のお話されたテーマを考えず、想像力を働かせて、考える人になるということは、とても大事と思いました。
- ・どのようにして作品が出来上がったのか知ることができて良かったです。 ボランティアで読み聞かせていますが、聞き手が自分の中で物語を完成させられるような押しつけにならない作品で選んでいきたいと思います。
- ・経験から非常にハッとするような考え方、見えない世界の大切さを知らされ、無意識に考えていたことをハッキリ認識させられました。

### ◎鼎談

- ・社会の中での女性の立場、世の中を変えるためにはというはなしや、自己肯定感を持つためにはという話があって、参考になった。 変わっていく世の中でどう対応していくか。
- ・背景、活躍の場がちがう3者のお話での対比が、たいへん興味深かったです。
- ・松本氏という男性がいてくださり、バランスが取れているパネリストだった
- ・海原さんの話が特に明確で分かり易かった。 坂東さんの話も良かったです。
- ・短い時間ではなかなかむずかしい事ですが、角野先生と海原先生の事を知れて良かったです。 角野先生のお話をもっと聞きたかったです
- ・RIZAP 松本氏は女性に対する考え方が、形など世間の流れにのっている人達とは違う本気さが伝わってきました。 海原先生の医師としての言葉も充分身にしみました。
- ・自分の言葉で自分の意志を持つ人間になるために、自らが想像する力が大切ということがわかった。 そこから自己肯定にどうつながって、なぜそういう人が若者に少ないなど、言及してほしかった。

## 【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

- ・回収したアンケート（有効回答数 150）によると「とても良かった」58.7%「良かった」31.3%の合計が90%となり、高い満足度を得ることができた。
- ・「自己肯定感」というテーマを通して、女性のエンパワメントや男女共同参画について、考える場をつくることができた。
- ・本イベントは、申込開始から約2週間で定員に達し、その後も参加希望が相次いだことから、多くの人々の関心を呼んだことが明らかである。
- ・「自己肯定感」は、その人の人生に大きな影響を与えていると言われていた。日本の若者、男性に比べて女性の方が肯定感が低いと言われる中、「自己肯定感」の意味やその重要性を知ることに貢献できた。
- ・「自己肯定感」の概念は難解であり、立場の異なる有識者が議論を交わしても、すぐにも答えの出る問題ではない。一部のアンケートには、そのような感想も記されたが、「自己肯定感」について、自分に引き付けて考えるきっかけになったと思う。

## 【今後の課題】

- ・人生に大きな影響を及ぼすという「自己肯定感」について、時間の短いシンポジウムで議論し尽くすことはむずかしい。しかし、先進国の中の日本の若者、男性に比べて女性が自己肯定感が低いと言われる中、「自己肯定感」を高める働きかけや教育の在り方について、今後も自分のこととして考える機会をつくる必要があるであろう。
- ・日本の若者や女性の自己肯定感を高めるためには、社会の在り方そのもの、社会規範が変化していくことが求められる。今後も、イベントやメディア、ITツールなどを使って、無意識に女性たちに求められるジェンダー規範からの解放、男女共同参画の考え方の定着をすすめなければならない。
- ・参加者数は想定を超えるものであったが、割合として40歳代以上の女性が多くを占めたことから、若年層の参加を増やす取り組みが必要である。今回は、「新聞」による集客数が最も多かったが、SNS等、若者が多く用いるツールを活用し、いかに若者に情報を届けるかが課題である。

# 関西女性活躍推進シンポジウム～すべての女性が活躍できる関西へ～

(報告)

団体名 : 関西女性活躍推進フォーラム他

## 【開催趣旨・目的】

「働きたい女性が日本で最も活躍できる地域・関西」の実現をめざし、関西経済連合会と共同で「関西女性活躍推進フォーラム」を設置し、関西における女性活躍に向けた機運の醸成等に取り組んでいるが、企業、行政、地域団体、大学、学生等、それぞれの立場で女性活躍に向けた理解を深め、行動につなげることを目的にシンポジウムを開催する。

## 【日時】

平成 31 年 2 月 13 日 (水) 13:30～17:00

## 【場所】

兵庫県民会館 9階 けんみんホール  
(神戸市中央区下山手通 4-16-3)

## 【参加者数】

総計：約 202 名

- ① 主催者関係者数 約 50 名
- ② 一般参加者人数 152 名
- ③ 男性参加者数 36 名 (アンケート記入者 121 名中)  
男性参加比率 29.8% (アンケート記入者 121 名中)

## 【プログラム】

### 13:30～13:40 主催者あいさつ

井戸 敏三 (関西女性活躍推進フォーラム顧問、関西広域連合長、兵庫県知事)  
岡本 義朗 (内閣府大臣官房審議官 (男女共同参画局担当))

### 13:40～14:45 第 1 部 基調講演 (65 分)

- ① 「女性活躍推進の加速化を目指して～関西企業における取り組みの効果を検証する」  
講演者：関西学院大学経済学部教授 西村 智氏
- ② 「働き方改革～仕事・家庭の両立支援とイクボスの心得～」  
講演者：NPO 法人ファザーリング・ジャパン 代表理事 安藤 哲也氏

### 14:45～15:00 第 2 部 大学生からの提案発表 (15 分)

関西広域連合主催事業「大学生等との意見交換会」における政策提案発表  
最優秀賞受賞 四国大学短期大学部ビジネス・コミュニケーション科  
学生チーム「阿波 Girls」による発表  
「生き方・働き方「わたし流」ー誇りと自信を持って働く未来を描くー」

## 15:15~16:45 第3部 パネルディスカッション (90分)

### <パネリスト>

安藤 哲也氏 (NPO 法人ファザーリング・ジャパン代表理事)

西村 智氏 (関西学院大学 経済学部教授)

清原 桂子氏 (神戸学院大学 現代社会学部教授 (ひょうご女性の活躍推進会議))

白井 正勝氏 (東洋紡執行役員 (関経連労働政策委員会副委員長))

四国大学短期大学部 学生チーム「阿波 Girls」

### <ファシリテーター>

三崎 秀央氏 (兵庫県立大学 政策科学研究所教授 (関西女性活躍推進フォーラム座長代理))

## 16:45~17:00 閉会あいさつ

丸田 聡 (連合兵庫副会長 (男女共同参画推進委員長))

### 【参加者のおもな感想・意見】(アンケート等から)

- ・ 資料もしっかり用意されているので、もう少し時間があればよいと思う。
- ・ イクボスは必要だと思った。
- ・ 今を楽しむことがキーワードの一つと感じた。
- ・ 考え方やワードの整理に役立った
- ・ 女性活躍という切り口で男性ができることを考える良いきっかけになった。
- ・ 役所主催のイベントで期待してなかったが、期待以上に面白かった。
- ・ 本当に勉強が必要な人達が来ていない。
- ・ 今日聞いたヒントを少しずつ積み上げて少しでも変化に繋がればとモチベーションが上がった。
- ・ 若者世代、データ、実社会と男女共同参画へのポイントや活用すべき点があり、多くを学べた。
- ・ ポジティブになろうと思える内容で良かったと思う。
- ・ 自分の考えを再確認できた。
- ・ 盛りだくさんで少し長いと思う。

### 【シンポジウム等を通して得た成果(効果)と課題】

- ・ アンケート結果では、全体を通して「とても良かった」「良かった」合わせて85.1%であり、参加者に一定程度満足いただいた内容であった。
- ・ また、定量的に、参加者の女性活躍についての興味・関心のレベルを1~10までの10段階で測定したところ、参加前と比較し参加後の興味・関心のレベルが上がったことから、シンポジウムの開催が女性活躍推進の意識向上に一定の効果があったと推測される。

参加前：レベル1~5	21.5%	レベル6~10	76.0%
参加後：レベル1~5	7.4%	レベル6~10	89.3%
- ・ 一方、対象を企業、労働者、学生等幅広く設定したことから、ターゲットを絞ったテーマ

の設定がしづらく、論点がぼやけてしまったという意見もあった。

### 【今後の課題】

- ・ 関西における女性活躍推進をどう展開していくかが課題であると認識している。
- ・ 女性の就業率の向上のみならず、すべての女性が活躍できる関西に向け、引き続き関西女性活躍推進フォーラムにおいて、構成団体間で連携しながら、さらなる機運醸成等に取り組んでいきたい。
- ・ また、シンポジウムの運営については、前述のように、対象を幅広く設定したことにより、論点が明確にならなかったこと。また、アンケートでの「基調講演の時間が短かった」「本当に勉強が必要な人が来ていない」との回答も踏まえ、今後シンポジウム等を開催する際には、テーマ設定、時間配分、対象者への働きかけについて留意したい。



# 「おとう飯シンポジウム

## 生活を楽しむ“お手軽”家事のすすめ

(報告)

団体名：静岡市女性活躍推進協議会

### 【開催趣旨・目的】

第4次男女共同参画基本計画で掲げる重点分野のうち、第1分野に「男性中心型労働慣行等の変革と女性の活躍」がある。

当協議会では、女性の職業生活における活躍の推進に関して、企業又はそれらで構成される団体・行政機関等の取組が効果的かつ円滑に実施されるよう取り組んでおり、昨年度は男性の家事参画への促進を目的とした「しずおか版おとう飯レシピコンテスト」を開催した。今回は、家事参画の促進は、ワークライフバランス（WLB）の一環として、本人や企業等経営者の理解を促進させることが必要であることから、意識啓発の成果が見込まれる形態としてシンポジウムを企画する。手早く・簡単・リーズナブルな「おとう飯」に、自立・家族の幸せ・生きがい等プラスアルファの要素を加えて考えてもらい、男性のみならず、女性も含め一人ひとりが料理等家事へ気軽に参画できる意識を高め、それぞれの生活を豊かにすることを狙いとする。

当協議会は、静岡市における地域版男女共同参画推進連携会議という特徴があり、地元企業やその経営者、大学・専門学校など幅広い参加の呼び掛けが可能であり、本事業を通して、①家事参画促進、②ワークライフバランスの推進、③働き方改革といった成果が期待される。

さらに、シンポジウムと連携し、地元企業等が男性料理教室など自主企画を開催することにより、家事参画促進に向けた具体的行動へつなげていく。

【日時】平成30年12月9日(日)13:00～15:45(受付12:30)

【場所】ホテルセンチュリー静岡（4階クリスタルルーム）

【参加者数】100名

（内訳：①主催者関係者 5名、②一般 95名、③男性参加者数32名（32%）

### 【プログラム】

- 13:00～13:05 開会の辞
- 13:05～14:05 ◆第1部 基調講演  
「男性料理教室が証明する“料理で笑顔が生まれる新しい家族の形”  
講師：福本陽子氏（男子料理研究家・トータルフードコーディネーター）
- 14:05～14:15 ～休憩～
- 14:15～15:40 ◆第2部 パネルディスカッション  
テーマ「生活を楽しむ“お手軽”家事のすすめ」  
パネリスト：  
伊藤公雄氏（京都産業大学 現代社会学部 教授、京都大学 名誉教授）

跡部千慧氏（静岡大学 男女共同参画推進室 助教）  
加藤嘉泰氏（静岡ガス株式会社）  
望月正子氏（株式会社静鉄ストア）  
福本陽子氏（男子料理研究家・トータルフードコーディネーター）  
ファシリテーター：  
犬塚協太氏（静岡県立大学 国際関係学部 教授）

15：45 閉会

### 【参加者のおもな感想・意見】（アンケート等から）

#### （1）第1部 基調講演について

- ・料理と仕事のつながりがとてもわかりやすかった。自分ももっと料理をしようと思った。実例がたくさんあってよかったです。
- ・実体験に基づく講演内容で、説得力あり。男の料理教室を体験してみて、同感の効果を得ております。
- ・男性に家庭での役割を与えることで家族の仲や、また仕事にもつながるという点がとても興味深かったです。
- ・演題にそった内容をたいへん分かりやすくご講演いただいた。料理教室をきっかけに男性が家事に参画するようになり、家庭も幸せになれることがよく分かった。
- ・「料理」を通じて、家庭が変わる、仕事も変わる、人生が豊かになるということを強く感じました。
- ・料理において人生を楽しむ、暮らし方が変えられることを多くの方に知ってもらいたい。静岡にメンズキッチンを！

#### （2）第2部 パネルディスカッションについて

- ・研究者、専門家だけでなく実践者もディスカッションに加わっていたのがよかったです。静岡の事情がわかってよかった。
- ・「手間をはぶくことに罪悪感をもたない」という考え方が、とても印象的でした。 ・日本で男性の家事参画が少ない理由や課題が理解できた。
- ・専門家の方の意見と民間の参加者を交えた話により現在の社会状況を知る機会となりました。
- ・女性の家事に対する意識も変えなくてはいけないことが分かりました。
- ・分野毎の人選がよかった。企業の2人にももっと話をさせてほしかった。サラリーマン代表として。さらに高齢者のパネリストがいればよりよかった。
- ・参加者ももっと参加ができれば良かったです。

#### （3）シンポジウム全体について

- ・男性の家事参画は必要なことなので、企業や社会がそれが当たり前となる文化をつくってほしいと思います。
- ・男性が家事・育児にこれまで以上に参画していくためにワーク・ライフ・バランスを推進していく重要性を再認識した。
- ・出席者が直接、参加が出来る企画があれば良かったです。

- ・ 今後、静岡が成長するためにも働き手となる共働き世代にこそ参加してほしい内容でした。対象世代よりも参加者が高齢に感じました。

### 【シンポジウム等を通して得た成果（効果）と課題】

第1部基調講演では、男性の家事従事時間における世界各国の順位や、国内における各都道府県の順位について数字での明示があり、改めて男性の家事参画における現状が示された。また講師主催の「メンズキッチン」において、男性が料理に取り組む様子やその変化、企業における料理を通じた社員研修での様子について具体的な説明があった。男性が家事等に参画する機会づくりや、料理参画を通じたワークライフバランスの推進や仕事の効率化等についての話もあり、男性の家事参画等にかかる現状や課題とともに、取り組んだ結果の波及効果についても例示があり、男性も女性も誰もが、家事参画への意識を強めてもらえたものと思われる。

第2部パネルディスカッションでは、男女共同参画の有識者より「男性の家事参画における現状と課題」「共働き世帯の増加に伴う、家庭における男女共同参画の変化」「家事の省略化を良しとする意識改革」等について話があった。また、市内企業から子育て世代の代表として2名が登壇し、家事や育児の実践者が直面している課題・障壁を含めた失敗談や成功談を聞くことで、より参加者と一体感をもってディスカッションをすすめることができた。

当シンポジウムの課題としては、「おとう飯」当事者世代となる20～40代男性をもっと集客し、家事等への参画意識の変革及び醸成をすることがあげられる。一方で、働く全世代や定年後の方々や女性にも、料理参画を通じたワークライフバランスの重要性について気づきを与えることができたように思う。

また、本シンポジウムと連携し、民間企業が主体となり家事参画促進に関する事業が実施された（当該事業の一覧については別紙参照）。

### 【今後の課題】

男性の料理参画促進を目的とした「おとう飯」を始めとし、家事参画促進をすすめるには、単発のシンポジウムだけでは困難であるため、企業や団体と連携した取組が鍵となる。

また、休日の開催について、託児対応したものの子育て世代の参加が難しいことから、平日開催とし、企業と連携して男性の家事等への参画をすすめていく方法も考えていきたい。

○「おとう飯シンポジウム生活を楽しむ“お手軽”家事のすすめ」連携企画

当シンポジウムと連携し、民間企業が主体となり家事参画促進に関する事業が実施されました。以下報告します。

◆「おとう飯in常葉大学水落キャンパス」

常葉大学水落校舎食堂にて、おとう飯メニューの提供とともにレシピを紹介し、男性の料理参画を促進。

主催：静岡産業サービス株式会社 レストラン駿河

日時：平成30年12月11日（火）～12月14日（金）

会場：常葉大学水落キャンパス食堂

内容：おとう飯メニュー2品を期間特別メニューで提供①鶏もも肉の旨煮丼ぶり410円  
／②豚ニラもやし油淋鶏ソース410円

◆「パパにだって出来る！家族喜ぶごちそうメニュー♪」

男性向け料理教室、簡単で美味しいメニューを家族に作る。

主催：株式会社静鉄ストア

日時：平成31年1月14日（月・祝）10：00～13：00

会場：しずてつストア田町店フードスタジオ

内容：スペアリブと野菜のBBQグリル/トマトジュースで作るトマトのワンポットパスタ/  
ティラミス

定員：12人

受講料：2,000円（税抜き）

◆「基礎から学ぶ定番レシピ」

初心者向け料理教室、人気メニュー「チャーハン」など中華料理にチャレンジ。

主催：静岡ガス株式会社

日時：平成31年1月26日（土）10：00～12：30

会場：静岡ガス エネリアショールーム静岡クッキングスタジオ

内容：1班に1人ずつ講師がつくので、男性も女性も気軽に参加できて人気メニューのコツがつかめる。

定員：18人

受講料：2,500円（税抜き）

◆「給食でも家でもおとう飯」

市内大手企業の給食でおとう飯メニューを提供し男性の料理参画を促進。

主催：三菱電機株式会社静岡製作所

会場：三菱電機株式会社静岡製作所 ※企業内給食のため一般利用は不可

内容：1月の工場内給食において、毎週金曜1品「おとう飯メニュー」が登場。レシピも配布を行い、従業員に各家庭での料理参画を促進。

11日（金）ササミとキュウリの梅肉和え

18日（金）男の簡単ツナパスタ

（H29しずおか版おとう飯レシピコンテスト入賞作品）

25日（金）簡単贅沢！チーズのマッシュポテト